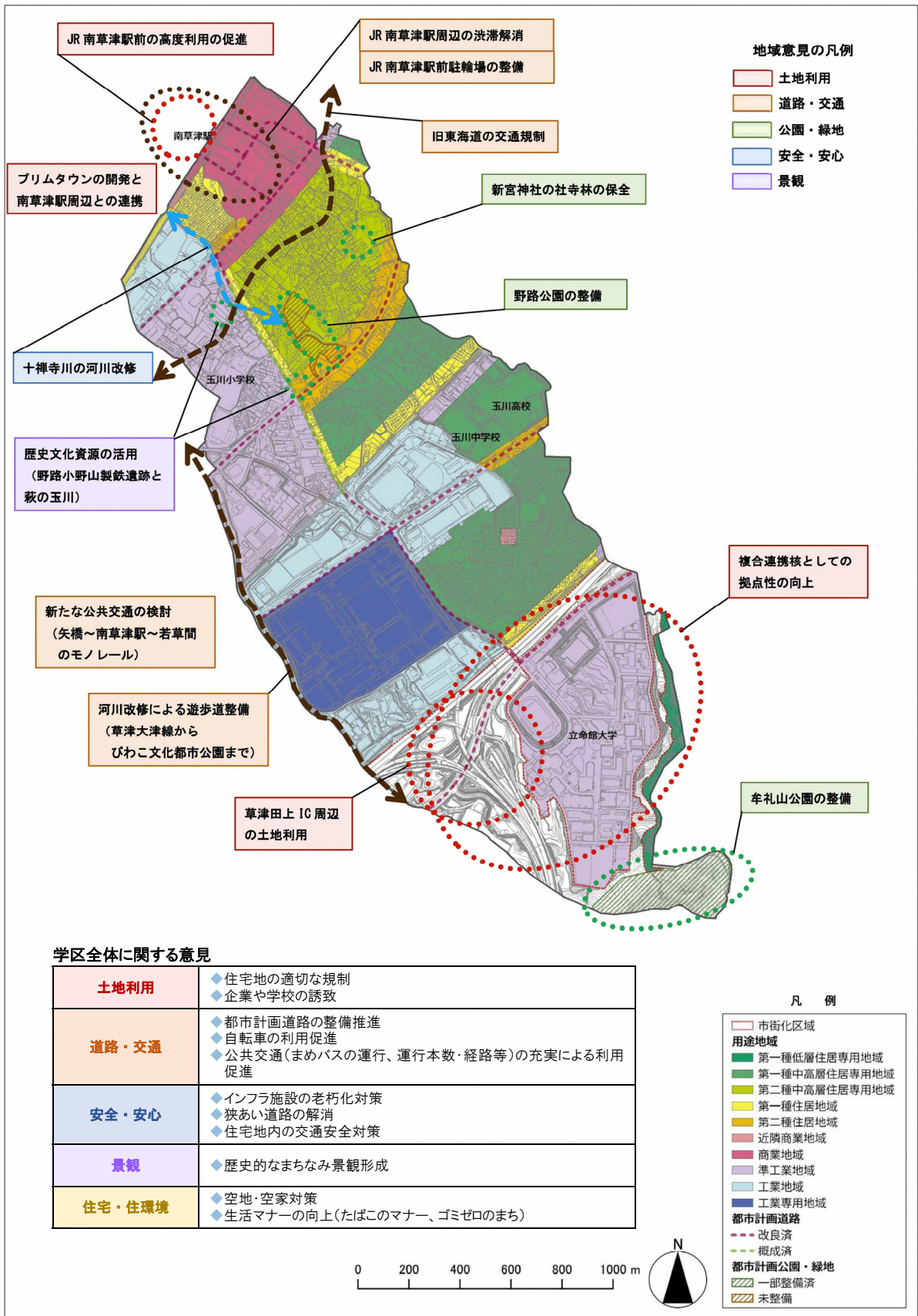


【地域からいただいた御意見（玉川学区）】





第4章 地域別構想で設定した南部中心核地域の「地域の都市づくりの目標」については、第2回地域別市民会議で地域の皆さまから挙げた以下のキーワードも参考としながら設定を行いました。

学区	矢倉	老上	志津南	玉川	南笠東
住環境		○副都心 ○快適な住環境 ○ゆとりがあるまちなみ ○高級住宅地 ○子育て ○若い、キラキラ ○未来の方いいものを	○子育てしやすい ○住んでみたいと思ってもらえるまち(空き家に転入) ○住み続けたいまち ○子育て世帯を中心に考える		○住環境と道路環境の両立(モデル地区となるような) ○住み続けたい
道路・交通		○利便性	○安全な交通環境のある ○高齢者の交通手段の確保 ○自転車利用の促進 ○脱自家用車		○交通の要所となっている道路交通網を利用して子どもも高齢者も楽に安全にどこにも行ける(渋滞しているのは交通結節点が多いため)
安全	○『安心して住める町』高齢者対策と世代間の交流問題 ○幼い子どもたちを守る、育てる、高齢者にも優しい町づくり	○防災 ○安全・安心		○安全、安心の住みよいまちづくりをもっとと提唱すべきです	
地域資源・歴史			○公園(児童だけでなく高齢者も使う、管理) ○調整池周辺の活用		○南笠東は歴史が薄い⇒○新たな歴史 ○新たな交流 ○未来都市
自然・農業	○自然との共生を求める町づくり ○草津川の景観と自然を守る ○びわ湖の自然、環境、景観、生き物を守るSDGsな町づくり	○まちとの自然の共存 ○自然と触れ合える ○農環境 good			
地域活動・にぎわい	○中心部の商店街の活気が悪くなっているのので、本陣を中心にしたまちなみを県外の人にもっとアピール行っている	○にぎわい	○商業施設の駐車場充実	○若い人との協創が必要です(各種団体共々、先見が乏しいように思います。) ○地域協働による持続可能な都市づくりが必要です(地元企業、大学等)	○みんなが楽しんで住民も使える(ハイウェイオアシスも) ○地域がつかかり
その他	○健幸都市 草津と全国では認知されているが、草津市も(特に矢倉学区)高齢化を迎えております。高齢者が楽しめる場所を各学区に設置していただきたい	○学習環境 good		○結論賛成であります、目標実現のためには改革・改善の裏付けとなる投資が必要です。考え方や構想だけでは前に進まないと思います。市として真に「都市づくりを進めるなら投資のための腹ぐくりが不可欠であり、この投資がマスタープラン実現の成否を握るものと思慮します ○低成長時代を迎え、少子高齢化を背負った社会環境構造の変化を捉え、5年ごとに進捗の確認及び軌道修正が何よりも大切です。20年後には生産人口の減少が予想されるため転入、転出、出生率が現行の推移を持続させるための施策が必要と思います。若者の車離れ、高齢者の免許返納で通行量が減少すれば良いのですが、電動自転車、電動車いす類の増加が予想されると、引き続き道路整備の必要性が求められます	



（４）東部丘陵地域

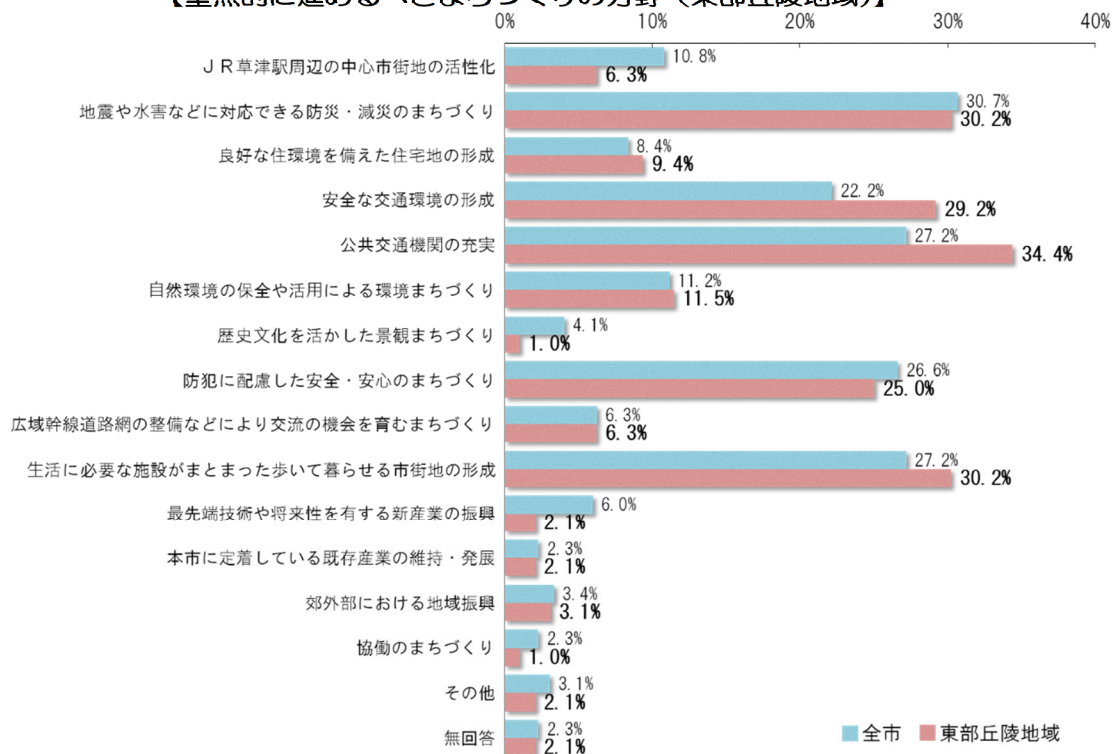
ア．市民アンケート調査

市民アンケート調査において、本地域にお住まいの皆さまの意向としては、次のとおりです。

①重点的に進めるべきまちづくりの分野

本地域において、全市の回答割合よりも多い項目は、「公共交通機関の充実」、「生活に必要な施設がまとまった歩いて暮らせる市街地の形成」、「安全な交通環境の形成」でした。

【重点的に進めるべきまちづくりの分野（東部丘陵地域）】



※2 つまでの複数回答、回答者数に対する割合

No.	設 問	全市	東部丘陵地域 (志津)
1	JR草津駅周辺の中心市街地の活性化	10.8%	6.3%
2	地震や水害などに対応できる防災・減災のまちづくり	30.7%	30.2%
3	良好な住環境を備えた住宅地の形成	8.4%	9.4%
4	安全な交通環境の形成	22.2%	29.2%
5	公共交通機関の充実	27.2%	34.4%
6	自然環境の保全や活用による環境まちづくり	11.2%	11.5%
7	歴史文化を活かした景観まちづくり	4.1%	1.0%
8	防犯に配慮した安全・安心のまちづくり	26.6%	25.0%
9	広域幹線道路網の整備などにより交流の 機会を育むまちづくり	6.3%	6.3%
10	生活に必要な施設がまとまった歩いて 暮らせる市街地の形成	27.2%	30.2%
11	最先端技術や将来性を有する新産業の振興	6.0%	2.1%
12	本市に定着している既存産業の維持・発展	2.3%	2.1%
13	郊外部における地域振興	3.4%	3.1%
14	協働のまちづくり	2.3%	1.0%
15	その他	3.1%	2.1%
16	無回答	2.3%	2.1%

※赤色は全市での回答割合よりも高い箇所

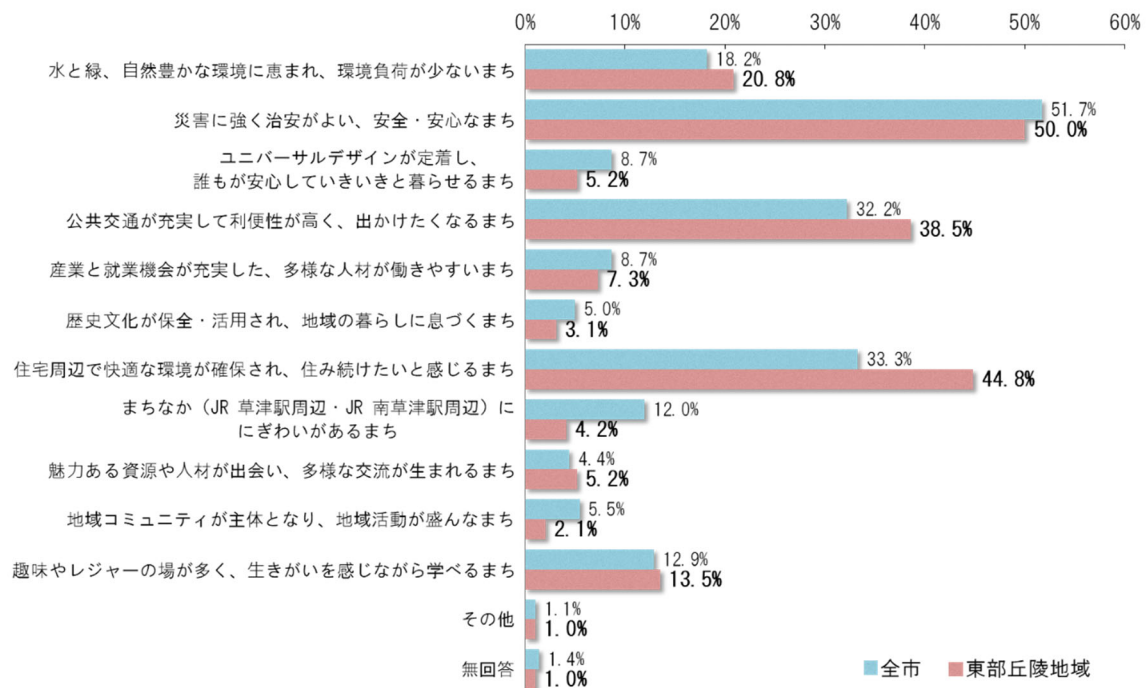


②目指すべきまちの将来像

本地域において、全市の回答割合よりも多い項目は、「住宅周辺で快適な環境が確保され、住み続けたいと感じるまち」、「公共交通が充実して利便性が高く、出かけたいまち」、「水と緑、自然豊かな環境に恵まれ、環境負荷が少ないまち」でした。

最も多い回答数は、「災害に強く治安がよい、安全・安心なまち」でした。

【目指すべきまちの将来像（東部丘陵地域）】



※2 つまでの複数回答、回答者数に対する割合

No.	設 問	全市	東部丘陵地域 (志津)
1	水と緑、自然豊かな環境に恵まれ、環境負荷が少ないまち	18.2%	20.8%
2	災害に強く治安がよい、安全・安心なまち	51.7%	50.0%
3	ユニバーサルデザインが定着し、誰もが安心していきいきと暮らせるまち	8.7%	5.2%
4	公共交通が充実して利便性が高く、出かけたいまち	32.2%	38.5%
5	産業と就業機会が充実した、多様な人材が働きやすいまち	8.7%	7.3%
6	歴史文化が保全・活用され、地域の暮らしに息づくまち	5.0%	3.1%
7	住宅周辺で快適な環境が確保され、住み続けたいと感じるまち	33.3%	44.8%
8	まちなか（JR 草津駅周辺・JR 南草津駅周辺）ににぎわいがあるまち	12.0%	4.2%
9	魅力ある資源や人材が出会い、多様な交流が生まれるまち	4.4%	5.2%
10	地域コミュニティが主体となり、地域活動が盛んなまち	5.5%	2.1%
11	趣味やレジャーの場が多く、生きがいを感じながら学べるまち	12.9%	13.5%
12	その他	1.1%	1.0%
13	無回答	1.4%	1.0%

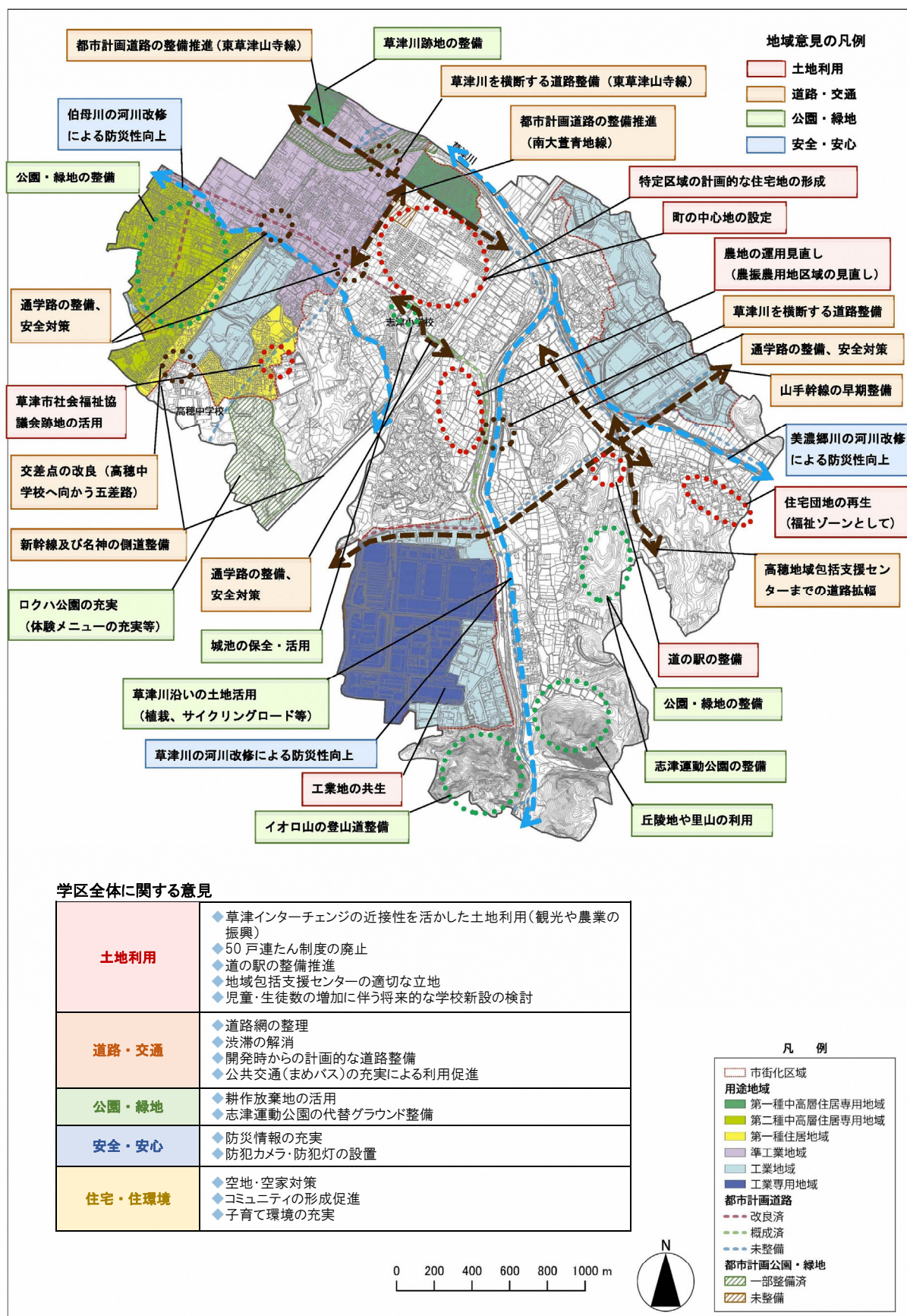
※赤色は全市での回答割合よりも高い箇所



イ. 地域別市民会議

第1～3回地域別市民会議で本地域にお住まいの皆さまからいただいた御意見は次のとおりです。

【地域からいただいた御意見（志津学区）】



第4章 地域別構想で設定した東部丘陵地域の「地域の都市づくりの目標」については、第2回地域別市民会議で地域の皆さまから挙げた以下のキーワードも参考としながら設定を行いました。

学区	志津
住環境	☐ (既往計画の)住・工・農の調和までは良い ☐ 住みやすいまち
道路・交通	☐ 交通改善
安全	☐ 安全安心 ☐ 子どもの安全 ☐ 安心
地域歴史・資源	
自然・農業	☐ 緑が多いくつろげる場所 ☐ 里山 ☐ 自然と調和したまちづくり ☐ 乱開発させない ☐ 自然体験 ☐ 農の振興 ☐ 里山利用 ☐ 親水性 ☐ 先進農業の振興
地域活動・にぎわい	☐ 中核の施設、学区のまとまりがない ☐ 街の中心地を決めて商業地に
その他	



参考－２ 策定経緯

令和元年度	7月30日	第1回策定委員会 諮問	令和3年度	6月4日	第6回策定委員会
	10月11日	第2回策定委員会		8月4日	第7回策定委員会
	1月20日 ゝ 2月4日	第1回地域別市民会議		8月10日	策定委員会より答申
	3月9日	第3回策定委員会		11月5日 ゝ 12月5日	パブリックコメントの実施
	11月17日	第4回策定委員会			
令和2年度	11月18日 ゝ 12月15日	第2回地域別市民会議			
	1月26日 ゝ 2月8日	第3回地域別市民会議			
	3月24日	第5回策定委員会			

参考－３ 草津市都市計画マスタープラン策定委員会 委員名簿

学識経験者	飯田 克弘	大阪大学大学院工学研究科 准教授
	壽崎 かすみ	龍谷大学国際学部 准教授
	塚口 博司	立命館大学 名誉教授
	宮本 雅子	滋賀県立大学人間文化学部 教授
関係団体からの選出者	清水 和廣	草津市社会福祉協議会 会長
	本間 道明	草津市農業委員会 会長(令和2年7月19日まで)
	山本 英裕	草津市農業委員会 会長(令和2年7月20日から)
	中村 繁樹	草津市まちづくり協議会連合会 会長(令和3年3月31日まで)
	中谷 緑郎	草津市まちづくり協議会連合会 副会長(令和3年5月31日まで) 草津市まちづくり協議会連合会 会長(令和3年6月1日から)
	伊庭 健治	草津市まちづくり協議会連合会 副会長
	中野 宗城	草津市まちづくり協議会連合会 副会長(令和3年6月1日から)
	北村 嘉英	草津商工会議所 会頭
	宮下 千代美	特定非営利活動法人ディフェンス 理事
関係行政機関の職員	辻野 恒一	滋賀県土木交通部 技監(令和3年3月31日まで)
	黒澤 伸行	滋賀県土木交通部 技監(令和3年4月1日から)
公募市民	麻植 俊彦	公募委員
	酒井 紫帆	公募委員
	佐山 良則	公募委員

(学識経験者・公募市民は氏名、関係団体からの選出者は団体の50音順、敬称略)



参考－４ 用語解説

《あ行》

アセットマネジメント

更新時期の平準化と費用の最小化を図るため、道路構造物を資産として捉えて老朽スピード等を予測することにより、いつどのような対策をどこに行うのが最適であるかについて計画的かつ効率的に維持管理すること

エリアマナジメント

地域における良好な環境や地域の価値を維持・向上させるための、住民・事業主・地権者等による主体的な取組

《か行》

既存建築物耐震改修促進計画

建築物の耐震改修の促進に関する法律（耐震改修促進法）に基づき、建築物の地震に対する安全性を確保するため、一定の建築物（特定既存耐震不適格建築物）のうち、現行の耐震規定に適合しないものの所有者は耐震診断を行い、必要に応じて耐震改修を行うことを目的とした計画

狭あい道路

建築基準法第 42 条第 2 項に規定する道路で、幅員が 4m 未満の道路

緊急輸送道路

災害直後から、避難・救助をはじめ、物資供給等の応急活動のために、緊急車両の通行を確保すべき重要な路線で、高速自動車国道や一般国道およびこれらを連絡する幹線的な道路

近隣景観形成協定

景観形成を市民が自ら取り組み展開する、住民相互の協定制度として定められたもの

グリーンインフラ

自然環境が有する機能を社会における様々な課題解決に活用しようとする考え方

景観アドバイザー制度

景観形成の取組を支援し、良好な景観形成を推進するための制度

景観形成重点地区

地区を特徴づける主要な景観を有する場所や、新たに景観形成を誘導すべき場所等、重点的に景観形成を図る必要のある場所を指定し、個性豊かなまちづくりを進めていく地区

健幸

生涯にわたって心も体も健やかで幸せに過ごせること。本市では、市民が生きがいをもち健やかで幸せに暮らせる新しい都市モデルとして「健幸都市づくり」に取り組んでいる

健康寿命

平均寿命から寝たきりや認知症等、介護状態の期間を差し引いた期間。平均寿命と健康寿命の差が短縮されると、医療費や介護普及費の消費が抑えられることにより、個人の生活の質の低下を防ぐとともに、社会保障負担の軽減も期待できるとされている

コミュニティデザイン

コミュニティの力が衰退しつつある社会や地域のなかで、人と人のつながり方やその仕組みをデザインすること

コミュニティバス

市町村が主体的に関わり、需要の少ない地域や道幅が狭い地域を中心に低床式の小型バス等により、地域住民の日常生活に密着したバスサービスを提供するもの

コンパクト・プラス・ネットワーク

生活サービス機能と移住を集約・誘導し、人口を集積したコンパクトシティに、まちづくりと連携した公共交通ネットワークの再構築を掛け合わせたもの

《さ行》

産学官金

「産」は産業界、「学」は学界、「官」は行政、「金」は金融界を意味し、地域を構成するそれぞれの主体が協力・連携し、まちづくりを進める

市街化区域

既に市街地を形成している区域および概ね 10 年以内に優先的、計画的に市街化を図るべき区域

市街化調整区域

市街化を抑制する区域。この区域では、開発行為や都市施設の整備は原則として抑制される

市街地開発事業

計画的な市街地形成を図るため、道路、公園等の公共施設の整備と合わせて宅地の利用増進、建築物の整備を一体的かつ総合的に進める事業

社会的包摂

国民一人ひとりが社会に参加し、存在能力を発揮できること

人口フレーム

国勢調査や住民基本台帳のデータをもとに、将来のある時点における定住人口を様々な手法で推計したもの。算出された結果に対して、都市づくりの観点から総合的な検討を加え、最も適切だと判断される値で設定する

尖角三角州状

河口がとがっているような三角州のことで、川によって運ばれた土砂がよく削られる場合に形成される



ゾーン 30

区域を定めて時速 30 キロの速度制限を実施するとともに、その他の安全対策を必要に応じて組み合わせ、ゾーン内における車の走行速度や通り抜けを抑制する

《た行》

低騒音舗装

自動車のタイヤと路面の間の空気が入ることで起こる騒音に対し、空気を舗装の中に逃す仕組みとした舗装

低未利用地

市街化区域内で空地や荒地等となっている、利用が進んでいない土地

デマンド型交通

事前予約により運行する交通システム

伝統的沿道景観重点地区

歴史・文化の薫る街並み景観を生かし、積極的に保全・再生していく地区

都市計画区域

自然的・社会的条件、人口・土地利用・交通量等の現況・推移を勘案して、一体の都市として総合的に整備、開発及び保全する必要がある区域

都市計画公園

都市に配置されるべき施設として、都市計画法に基づいて都市計画決定した都市公園

都市計画道路

都市の諸活動を支えるため、都市の基盤的施設として都市計画法に基づいて都市計画決定した道路

都市施設

都市の骨格を形成し、円滑な都市活動を確保し、良好な都市環境を保持するために必要不可欠な施設のことであり、道路、駐車場、公園等がある

《な行》

農業振興地域

自然的・経済的・社会的諸条件を考慮して、総合的に農業の振興を図ることが必要であると認められる地域

農業振興地域整備計画

市町村が農業振興地域について土地区分や農業上の用途区分等を定めた計画

《は行》

パブリックコメント

行政が施策等について意思決定を行う前に、市民の意見・情報を集め意思決定に反映させることを目的とした制度

バリアフリー

すべての者が社会生活を行っていく上で、段差等の物理的な障壁(バリア)になるものを取り除くこと

包括連携協定

福祉・環境・防災・まちづくり等、地域が抱えている様々な課題に対して、自治体と民間企業等が双方の強みを生かして課題解決に向け連携していく取組

《ま行》

モビリティ

移動性や動きやすさ

《や行》

ユニバーサルデザイン

すべての人が利用可能であるように、製品、建物、空間をデザインすること

用途地域

都市計画法に基づき定められた地域地区の一つで、主に住居、商業、工業等の建築物の用途や容積率、建ぺい率、高さ等の形を規制・誘導し、秩序あるまちづくりを行うために用途を制限する地域

《ら行》

立地誘導

人口減少の中にあっても一定エリアにおいて人口密度を維持することにより、生活サービスやコミュニティが持続的に確保されるよう誘導すること

緑地協定

健康で文化的な住宅地の生活環境を確保するために、住民全員の賛同のもとに、樹木の種類や植栽場所等のルールをつくり、区域内における緑地の適正な保全と緑化の推進を図る制度

《わ行》

ワークショップ

地域に関わる諸問題に対応するために、様々な立場の参加者が経験交流や共同作業を通じて地域の課題発見・創造的な解決策や計画案の考案・それらの評価等を行っていく活動

《A～(アルファベット)》

ICT

通信技術を活用したコミュニケーション

IoT

モノに通信機能を搭載してインターネットに接続・連携させる技術

PPP/PFI

公共施設等の建設、維持管理、運営等を民間の資金、経営能力および技術的能力を活用して行う新しい手法

